

図書館だより 11月号

令和4年 11月30日
万代高校図書館

ずいぶん寒くなってきましたね。朝や夕方、外に出ると冬のおおいを感じます。この時季の、何ともいえず寂しいような、懐かしいようなこの空気感、覚えがある人もいるのではないのでしょうか。

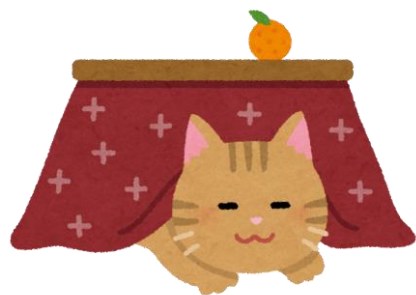
休日に、自転車でゆっくり走っていると、冬の野鳥の声が聞こえてきます。私が高校生の頃、野鳥図鑑を片手に鳥の姿を探すのに夢中でした。今もそのとき覚えた鳥の名前や鳴き声が、楽しい気持ちにさせてくれます。皆さんも10代の今、ふと読んだ一冊の本の中に、一生を楽しくさせてくれる知識や言葉があるかもしれません。

寒いのは苦手ですが、そんな季節だからこそ楽しめる何かを探すのも良いですね。どの季節でも言っていますが、冬こそ読書！です。長い夜を、温かい飲み物と甘いお菓子と、何冊かの本と一緒に過ごしてみませんか？

図書館司書 楠

冬休みは

こたつで読書！



特別貸出、始まります

今年の冬も、ずいぶん寒くなりそうな予報ですね。屋内で過ごす時間が多くなる冬こそ、本をそばに置いて欲しいもの。今年も冬休み前の特別貸出を行います。ぜひ利用してください！

12月12日(月)～12月23日(金)
貸出上限 1回10冊
期間中、何度でも借りられます！
返却は冬休み明けの1月6日(金)まで

千の扉あけて 第17章

本の表紙を開いて最初に現れる、タイトルの書かれたページのことを「扉(とびら)」と呼びます。本を開くことは、いろんな世界、いろんな物語、いろんな知識へとつながる扉を開くこと。これから皆さんを、無数にある扉のひとつへご案内します。それをあけるかどうかは、あなた次第。ですが一冊の本の世界を旅した時、きっとそれ以前とは変わっている自分に気づくでしょう。今回の「扉」は…

『物理学者のすごい思考法』

橋本幸士 著
集英社イタナヨカ

420
ハ



文系ですが、理系の人の考え方が気になる私です。そんな憧れともいえる気持ちを刺激する、実に面白い本です。

物理学者は研究だけでなく、日常生活でも独特の視点でものごとを考える。通勤やスーパーマーケットでの最適ルート、ギョーザの適切な作り方、エスカレーターの乗り方、調理可能な料理の数…。著者の「物理学的思考法」の矛先は、日々の身近な問題へと向けられた。超ひも理論、素粒子論という物理学の最先端を研究する学者の日常は、「異次元の視点」に満ちている！ユーモア溢れる筆致で物理学の本質に迫る科学エッセイ。

物理学の楽しさや、数学の美しさを理解したい願望が、実は今も心の中にあります。超初歩的な入門書などがあれば、今からでも学び直したいところです(オススメがあったら教えてください)。物理学の最先端に行く研究者の著書ですが、エッセイとして非常に読みやすい、言葉のチョイスに驚かされます。「たこ焼きの半径上限」や「歩数計を欺く」などなど、物理学者って、何でも研究対象にしてしまうのですね。理系の人でもそうでない人も、ぜひ読んでみてください。でも時々出てくる「素粒子論」や「ファインマン図」などは、やっぱりサッパリ分からナイ…。

それではまた、次の扉でお会いしましょう！



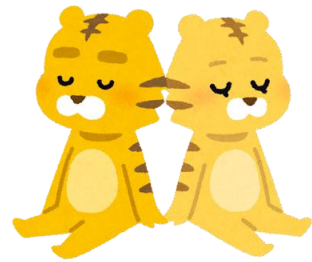
PICK UP! 「ホッとする本」

寒い季節ですが、身も心も元気で過ごしたいですね。今回は、ちょっと疲れたときに読んで欲しい本、心をホッと温めてくれる本を選んでみました。



『大丈夫じゃないのに大丈夫なふりをした』

クルベウ 著 ダイヤモンド社



語りかけるような、穏やかな言葉で綴られたエッセイ。人間関係、夢、恋、仕事、そしてかけがえのない自分の心について…いつも周りに気をつかい、他人を優先して疲れてしまう、そんな人に読んで欲しい一冊。

『誰よりも先にあなたが幸せになりなさい』

ポムリユン 著 マガジンハウス



僧侶であり作家の著者が語る、幸せに生きるための考え方。他人に期待をしすぎることで苦しくなってしまうたり、理想の自分と現実との違いを感じて悲しくなったり…誰もが持つ、そんなモヤモヤが軽くなる言葉が詰まっています。

『いまきみがきみであることを』

白井明大 著
カシワイ 画 書肆侃々房



心がざわつくときは、詩が効果絶大だと私は思います。人気イラストレーター、カシワイさんの描く表紙と挿画も美しい詩集です。ゆっくり、じんわりと沁みってくる言葉の力を感じてみてください。

「こんな本を探している」「こんな本を紹介して」などの質問・相談、また「こんな本を置いて欲しい」というリクエストもどうぞ。読んだ本の感想や、好きな本の話も聴かせてくださいね！

